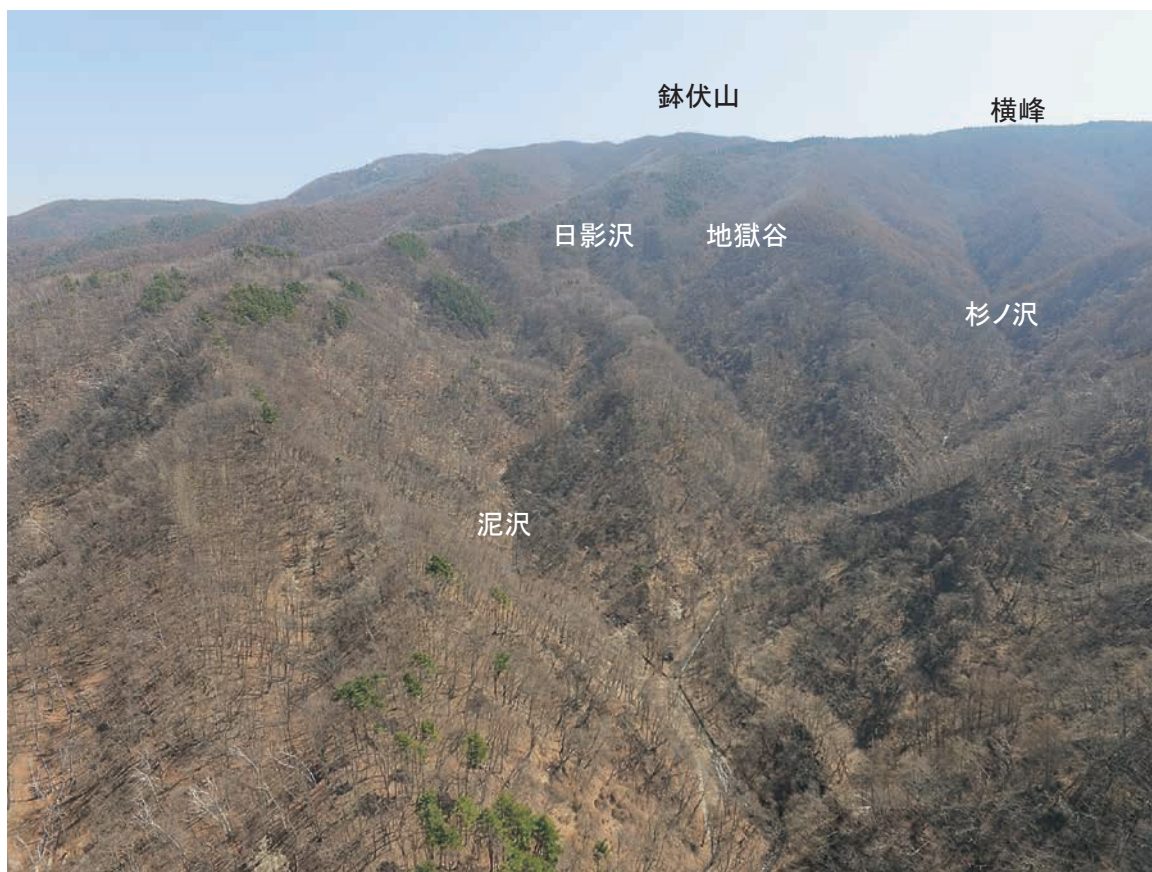
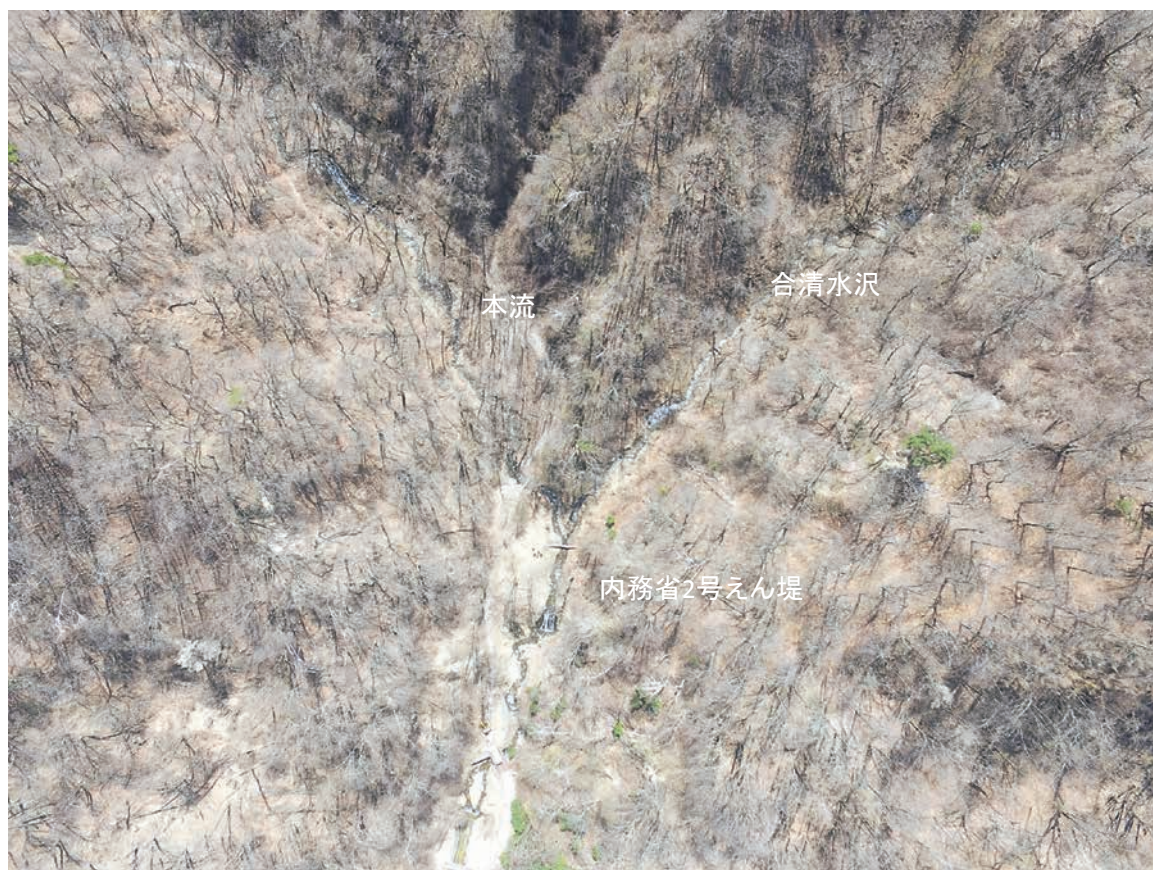


A：空から見た牛伏川（ドローン撮影）



A1：泥沢、日影沢、杉ノ沢の源流部 頂上は横峰、手前の合流点に現在松建小屋がある。



A2：本流と合清水沢合流点 中央下に内務省2号、左本川に同3号、右の合清水沢に同5号がある。

B：内務省えん堤



B1：内務省2号えん堤 水通しの側壁などが曲線的な特徴ある形状である。



B2：内務省3号えん堤



B3：内務省4号えん堤



B4：内務省えん堤の石積みの状況 階段工などとは異なる。



B5：内務省5号えん堤 形状が2号えん堤と類似している。

C：牛伏川本流水路（牛伏川階段工）



C1：階段工全景 年間を通し水の流が絶えず、周囲と調和する形状が美しい。



C2：石積の形状 角は丸みを帯びており、柔らかな印象を与えている。



C3：階段工上部 落差を数段の床固で処理している。



C4：水叩の小段差



C5：旧内務省1号えん堤との接合



C6：最下流の根止えん堤 当初下流の水叩は沈床だったと思われる。

D：泥沢の砂防施設

D2：泥沢の水
路張石 尾根ま
で直線上に伸び
ている。



D1：上空からみた杉ノ沢
泥沢合流点上流



D3：泥沢中流部右岸
の水路張石
いくつかの水路が合流
している。



D4：杉ノ沢泥沢合流点直上流のえん堤 泥沢水路は円形の形状である。河床に沈殿する泥が沢の名称の由来とされる。



D5：泥沢中流部のえん堤 高さ5m以上と規模が大きい。副えん堤が2つ設けられ、高落差を処理している。



D6：泥沢中流部のえん堤 水通しが曲線状で堤長方向がアーチ状になっている。



D7：泥沢源流部急斜面にある谷止えん堤

E：日影沢・地獄谷の砂防施設



E1：日影沢中ノ沢合流点付近の石積えん堤 下流法面が2段積みになっている。



E2：横からみたE1のえん堤 右岸の斜面の裾に石積み護岸がつづく。



E3：日影沢と中ノ沢合流点付近から上流に連続する石積みえん堤 流向に配慮し、えん堤の向きが配置されている。



E4：日影沢と地獄谷の合流点 左の日影沢の水路は半円形状、右の地獄谷の方が水量が多い。



E5：地獄谷の最下流部のえん堤 破損は見られず安定している。



E6：地獄谷源流部の水路などは、対岸が一部崩壊し、埋没している。

F：杉ノ沢・本流水路



F1：杉ノ沢直線水路 本流の洪水に対応する本格的な水路張石。



F2：直線水路の上流に位置する5段連続えん堤 落差をここで処理している。



F3：F1の三面張水路の空石積 底の凹凸が水の流れを抑制、美しくしている。



F4：林相転換事業で行われたニセアカシヤへの対策（「巻枯らし」とよばれる。）



F6：杉ノ沢上流部連続えん堤群の現況 高落差を水の向きを変えながらえん堤が配置されている。



F5：杉ノ沢上流 えん堤間の水路部も石張であるが袖部が流水で洗掘されて、破損し始めている。

G：合清水沢、悪沢、本流水路沿いの砂防施設



G1：落差を2段で処理する特徴あるえん堤



G2：支流の谷止工の石積 左右岸の取り付けの石積形状が特有である（ハート型）。



G3：小規模なえん堤 高さが低く、下流勾配も緩やかである。



G4：悪沢のえん堤 高さに比して堤長が長く、上流の右岸に石積護岸が続いている。



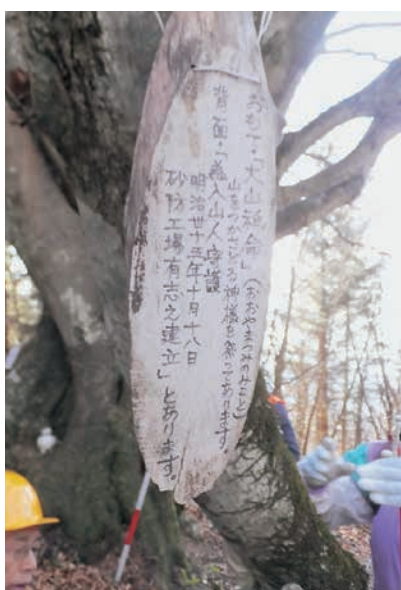
G5：悪沢合流の直上流の本流右岸斜面の現状 積苗工や水路張石の施工状況が窺える。整備直後であり、草木が繁るとみえない。



G6：水路張石が斜面上部までのび、数段には水路から横に石積連続している。

H：山頂尾根部 石切場

表「大山祇神」（※おおやまづみのみこと）
裏「為入山人守護 明治卅五年十月十八日
（砂防工場有志之建立）」
※明治35年10月18日に建てられたとある。



H2：ブナの木権現横の明治35年建立の砂防工碑の内容



H3：横峰につながる尾根部にあるブナの木権現と砂防工碑



H1：日影沢と地獄谷合流点上空から、鉢伏山、石切場方面を望む

H4：日影沢と泥沢の源流斜面の尾根部。やせ尾根になっている。



H5：石切場、採掘跡や食器の破片等が確認できる。

